



## 誠恵高等学校陶芸部

陶芸は素材が粘土なので削るのも付け加えるのも簡単 一方、焼いてみないと成果が分からない難しさも

誠恵高校には普通科芸術コースがあり、2年生からデザイン専攻▽絵画専攻▽陶芸専攻——に分かれる。高校には陶芸窯が電気窯とガス窯の二つあり、特にガス窯は縦横高さがともに1桁ある高校では珍しい大きな窯。生徒は大作に挑める。

陶芸部員は陶芸専攻の生徒を中心に9人。杉山大介教諭と三浦葵講師の他、富士宮市に窯を構える陶芸家の小割哲也さんも作品作りを指導する。「木彫なら削り過ぎて失敗したら終わりだが、陶芸は素材が粘土なので削るのも付け加えるのも簡単。やり直しが利くので生徒に教えるのに向いている」と、陶芸は教育に適すると小割さん。一方、焼いてみないと成果が分からない難しさもある。

部長は「平面より立体が得意と分かり陶芸部を選んだ」と話す梅村華菜さん(3



手回しろくろの上の作品にコンプレッサーで釉薬を吹き付ける部員



全国高等学校総合文化祭出品の部長の梅村華菜さんの『碧色の詩』

年)。「限られた時間で仕上げなければならないので、丁寧にかつ早く作業する行動力が身についた。陶芸室を使いやすく、過ごしやすくしようと、整理と清掃を心がけた」と話す。

梅村さんはウミウシをモチーフにダイナミックな動きを表現した「碧色の詩」で、昨年の県高校美術・工芸展で「県高校美術・工芸教育研究会優良賞」を受賞。ウェブ開催となったが、今年の全国高校総合文化祭出品作に選ばれている。

顧問は小松詩絵里教諭。「土にまみれて土と格闘する姿が輝いている」と温かい目で部員を見守る。

(毎日新聞沼津支局 石川宏)